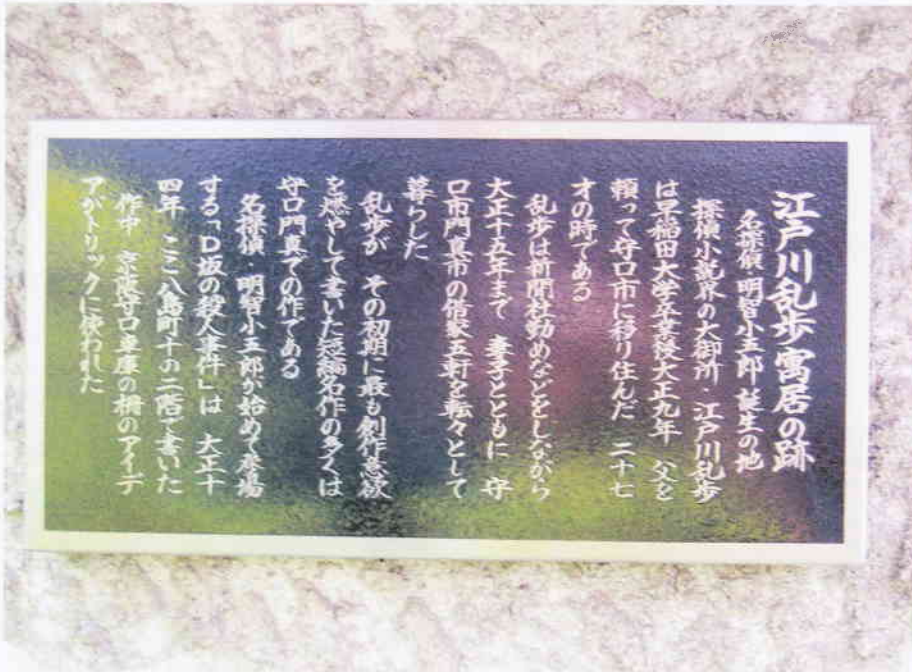


## 江戸川乱歩寓居跡 (名探偵 明智小五郎 誕生の地)

守口市八島町1-17

- ▶ 探偵小説で有名な江戸川乱歩が27歳の頃、父を頼ってこの地に移り住みました。その後守口、門真を転々と5回移り住んでいるようです。私が小学校の頃、よく読んだ探偵小説「怪人二十面相」や「少年探偵団」など数々の作品で登場し、名推理で解決をする名探偵 明智小五郎は、この家の2階で誕生しました。明智小五郎が初めて登場する小説「D坂の殺人事件」はここで執筆されました。



## 難宗寺(西御坊) 明治天皇守口行在所

守口市竜田通1-5-2

- ▶ 難宗寺は、蓮如上人が、文明9年(1477)に創立した守口御坊が始まりと伝えられ、慶長16年(1611)に本願寺掛所となり、ここからすぐ東にある盛泉寺(東御坊)に対して、西御坊と呼ばれるようになりました。場所は、前記の「大塩ゆかりの書院」からすぐ近くにあります。慶応4年(1868)、鳥羽伏見の戦いで新政府軍が勝利し、幕府軍を追い詰め、勝海舟と西郷隆盛の歴史的会見が行われた頃、明治天皇の大阪行幸がありました。その際、明治天皇は3月22日、守口で宿泊することになり、宿泊先となったのが難宗寺です。難宗寺境内には、次頁のように「明治大帝聖跡」という大きな碑があり、「正二位大勲位侯爵 松方正義謹書」という文字も確認できます。また、門の前には案内板や「明治天皇守口行在所」という碑も建っています。幕末の頃は京大坂間を幕府の閣僚も行き来していましたので、何人かは訪れたと考えられます。難宗寺には樹齢400年と想定されるイチヨウの大木があり、昭和50年、大阪府の指定天然記念物となっています。今年、江戸幕府開府400年にあたりますが、なお、生き続けていることを思うと感慨深くなります。



難宗寺



門前にある「明治天皇守口行在所」碑



「松方正義謹書による明治大帝聖跡」



「御行在所」碑ほか



## 盛泉寺（東御坊） 内侍所奉安所跡

守口市浜町1-2-6

- ▶ 盛泉寺は、東本願寺の末寺で、慶長11年(1606)に教如上人が開基したと伝えられます。たび重なる風水害がありましたが、現在の本堂は、天保6年(1835)に再建されたものです。ここからすぐ西にある難宗寺(西御坊)に対して、東御坊と呼ばれるようになりました。大塩平八郎が、内山彦次郎に宛てた長文の書状が、この寺に保存されています。内山彦次郎は、大坂西町奉行所与力で大塩平八郎や新選組に関連のあった人物です。  
(連載17回目参照)

また、前記で紹介した明治天皇大阪行幸(慶応4年3月)の折、この盛泉寺には、三種の神器を祀る内侍所とされ、本堂前に神殿が建てられました。この時三種の神器を入れるため、正門の横に重ねて新たに作られた表門は、「塀重門」と呼ばれています。

